

浜の活力再生プラン

1 地域水産業再生委員会

組織名	日野川流域水産業再生委員会
代表者名	美濃 美雄

再生委員会の構成員	越前市、鯖江市、南越前町、日野川漁業協同組合
オブザーバー	福井県 福井県内水面漁業協同組合連合会

対象となる地域の範囲 及び漁業の種類	○日野川流域 (福井県越前市、鯖江市、南越前町) ○内水面漁業 (アユ、ヤマメ (サクラマス)、イワナ、 コイ、フナ) ○組合員数 116名
-----------------------	---

2 地域の現状

(1) 関連する水産業を取り巻く現状等

日野川は、九頭竜川水系の支流であり、岐阜県との県境に位置する夜叉が池を源流として、南越前町、越前市、鯖江市等を通る幹川で、流路延長は 71.5 km となっている。

魚の種類も豊かで、アユ、ヤマメ (サクラマス) 釣りの隠れた穴場として県内外の釣り客より親しまれており、現在、年間 60 万尾、3,000kg を超える稚アユとイワナ、ヤマメ、フナ等を放流している。

特にアユについては、長い流路を活かして 45km に及ぶ友釣専用区域を設定しており、冷水病の心配が少なく再生産に寄与する海産系アユのみを放流している。そのため、県の施設で種苗生産された海産系稚アユを、日野川漁業協同組合 (以下、「漁協」という。) が中間育成施設において放流サイズまで育成している。

遊漁者数について見ると、近年、年間 3,000 人前後で推移している。平成 27 年の遊漁券の売上は 1,571 枚、7,470 千円となっており、平成 17 年の 2,235 枚、13,985 千円と比べて大きく減少しており、新規遊漁者の確保が課題となっている。

このため、漁協では、若者や女性客も釣りを手軽に楽しめるよう、遊漁料のうち年券を半額にするなど新規釣り客の増加につながるような取組みを行っているが、なかなか効果が現れないのが現状である。

一方で、平成26年に開通した舞鶴若狭自動車道により、県内の嶺南地域、京都府の日本海側、関西方面等からの釣り客の増加が見込めるようになったことで、日野川南部に位置する南越前町（今庄地区）が重要な釣りの拠点となることが期待されている。

（2）その他の関連する現状等

日野川流域では「日野川環境整備協議会」が河川除草、清掃、生息魚種調査などを行い、周辺流域全体で川の環境保全に取り組んでいる。

また、日野川の源流でもある夜叉ヶ池(南越前町)では、現地のみならず分布が確認されているヤシヤゲンゴロウが生息しており、釣り以外で訪れる者にも清流の澄み切った水が流れる里を印象付けている。

越前市では、砂礫河原の生き物を観察し、川遊びを体験することで川の魅力を発見し、川への関心を高めることを目的に、「そうだ、川に行こう」（主催 日野川に砂礫河原をとりもどす会）と題したイベントを若者や親子連れを対象に平成21年から開催しており、平成28年度には、約2,500名の来場者が訪れた。漁協としては、アユのつかみ取りや、塩焼の振舞い、水辺の生き物観察、伝統漁法の実演を行っている。

また、鯖江市では、「さばえ菜花まつり」（主催 さばえ菜花まつり実行委員会）と題したイベントを平成21年から開催しており、4月になると日野川堤防沿いに黄色の菜花ロードができ、各種体験、イベントを開催している。その体験のひとつとして、漁協は子供対象にヤマメの放流を行っている。

さらに、鯖江市では「さばえかわらぶ」（主催 鯖江河原部実行委員会、鯖江市）を開催しており、小学生を対象に、実際に川に入り、川の生き物調査、川流れ体験、魚釣り体験、昼には、河原でランチと、本格的な川の体験を行っている。

このようなイベント等を通じて、日野川流域の自然豊かな環境を誘客資源としてアピールすることは非常に重要であり、イベント等への漁協の協力が不可欠なものとなっているにもかかわらず、漁業者の高齢化が進んでいることから、新規漁業者の確保も必要となっている。

3 活性化の取組み方針

（1）基本方針

（1）収入向上のための対策

①アユ等資源の増加

河川におけるアユ等の資源を増加させるために、再生産に寄与しない湖産アユではな

く、資源増加につながる海産系アユの放流を継続する。

また、アユやヤマメ（サクラマス）等の遡上数を増加させるため、河床の掻き起こしや、はまり石を掘り起こして浮石とすることにより、これらの魚種の産卵床を造成するとともに、そこへ親魚を放流することによって円滑な再生産を促し、資源を増加させて漁業者の収入の増加を図る。

②遊漁者の増加

日野川流域で多くの釣り客が訪れる南越前町に「遊漁管理施設」を建設して、最新の釣り情報の提供や遊漁者同士の交流の場とするだけでなく、初心者の釣り講習会や、おとりアユの販売等を実施し、日野川における遊漁の拠点とする。このような遊漁管理施設での取り組み以外にも、釣りの楽しさやイベント情報、釣り場情報等を広報やインターネットを活用して県内外に積極的に発信し、従来の遊漁者だけでなく、特に女性や若者といった新規遊漁者の確保を図る。

また、アユ中間育成施設での飼育方法を見直して放流時期を早くすることにより、アユ釣り解禁日を現在の6月下旬から6月上旬に早期化し、遊漁期間の長期化による遊漁者の増加を図る。

さらに、水辺の樹木伐採、ゴミ拾い等の河川美化活動を実施し、従来の遊漁者に加えて新規の遊漁者も来やすい釣り場環境の整備を行い、遊漁者数の増加につなげる。

③アユの販売による収益確保

6月以降利用頻度が低くなる中間育成施設を活用して、漁業者等から買い取った天然アユの蓄養を行い、越前市、鯖江市および南越前町内の料亭などに販売するための体制づくりを行う。同時に、日野川のアユのPR活動等を行い、認知度向上を図る。

また、遊漁管理施設でおとりアユの販売を実施し、漁業者の収入増加を目指す。

④担い手の育成

内水面漁業の魅力を知ってもらうため、行政と連携した川に関するイベント等へ積極的に参加し、川の魅力、楽しさを広く周知するとともに、初心者を対象とする釣り講習会を定期的に開催し、釣り人口を拡大し、将来の漁業者の確保を目指す。

(2) コスト削減のための施策

① 漁場環境の改善

漁協は、定期的な釣り漁場の清掃によるゴミの回収や操業の障害となる水底の岩礁の移動を行うことで、操業中の漁具の引っ掛かりや損傷による消耗を抑え、資材費の削減を図る。併せて遊漁者に対し、ゴミの持ち帰り等呼びかけ活動を実施することで良好な漁場環境の維持管理に努める。

②アユ中間育成方法の改善

漁協では、中間育成施設の整備により、県で生産された稚アユを漁協で放流サイズまで育成することで種苗購入費や運搬費等の放流コストの削減を図っているが、地下水温が低下する3月以降は成長が停滞するため、6月の放流時期までの4か月間は加温を行っている。そこで、中間育成施設での稚アユの受け入れ時期を従来の2月から地下水温の高い1月に前倒し、河川水温が放流に適するまで上昇する5月に前倒し放流することにより、加温期間を3か月に短縮し、電気代等飼育経費の削減を図る。

③中間育成技術の向上

アユ中間育成における飼育技術（飼育水や餌の管理、早期の病気発見と対策等）の向上を図り、アユ種苗の生残率を向上させることにより効率的な育成を行うとともに、薬代や消耗品等育成経費の削減につながり、種苗単価を抑えることができる。

また、サクラマス（ヤマメ）についても、種苗購入費の削減と再生産の増加を図るため、日野川で採捕されたサクラマスを用いて、中間育成施設を有効利用した放流種苗の育成を行う。

④放流方法の改善

アユおよび雑魚（ヤマメ・イワナ等）の効率的な放流方法を見出すため、専門家による生息環境調査を実施し、魚種ごとに最適な放流量、放流時期、放流箇所および箇所数を検討することにより、放流種苗の生残率の向上につなげる。特に放流箇所数を見直すことにより、運送費や人件費等放流経費の削減が図られるとともに、アユについては魚影の濃い釣れる釣り場（アユ釣りのメッカ）を作る。

(2) 漁獲努力量の削減・維持及びその効果に関する担保措置

福井県内水面漁業調整規則 日野川漁業協同組合内共第3号第五種共同漁業権行使規則及び遊漁規則により

○アユについては、組合が公表した解禁日から11月30日以外は全面禁漁とし、漁具・漁法についても規制

○コイ、フナ、ヤマメ、イワナについては区間別にきめ細かく禁漁を定め、漁具・漁法についても規制等々

これらの規則により、水産資源の保護を図りつつ安定的な漁業活動を行っている。

(3) 具体的な取り組み内容（年度ごとに数値目標とともに記載）

1年目（平成29年度）

以下の取組で漁業所得を基準年度比0.5%向上させる。

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>①アユ等資源の増加 漁協は、海産系アユの放流を実施し、河川での再生産による資源の増加を図る。 併せて、河床礫石の状況調査を実施し、アユやヤマメ（サクラマス）等の産卵床の造成場所の検討を行う。</p> <p>②遊漁者の増加 漁協は、日野川流域の南越前町今庄に遊漁管理施設を建設し、遊漁者の増加を図る。 また、遊漁解禁前などに定期的に水辺の樹木伐採、ゴミ拾い等の河川美化活動を実施し、新規の釣り客も着やすい釣り場環境の整備を行い、遊漁者数の増加につなげる。</p> <p>③アユの販売による収益確保 漁協および越前市、鯖江市、南越前町は、各種イベントや情報誌で日野川のアユのPR活動を行い、認知度向上を図るとともに、日野川流域管内の料亭等と協議をし、天然アユを提供可能な販売先の選定を行う。</p> <p>④担い手の育成 漁協は、日野川流域で開催される行政と連携した川に関するイベント等へ積極的に参加し、内水面漁業の魅力を広く周知する。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>①□漁場環境の改善 漁協は、定期的な釣り漁場の清掃によるゴミの回収や操業の障害となる水底の岩礁の移動を行うことで、操業中の漁具の引っ掛かりや損傷による消耗を抑え、資材費の削減を図る。併せて遊漁者に対し、ゴミの持ち帰り等呼びかけ活動を実施することで良好な漁場環境の維持管理に努める。</p> <p>②アユ中間育成方法の改善 漁協は、中間育成施設への稚アユ種苗の受け入れ時期の見直しについて、県栽培漁業センターおよび県内水面総合センターと協議し、受け入れおよび飼育体制を検討する。</p> <p>③中間育成技術の向上 漁協は、県内水面総合センターや民間の経験者等からアユの中間育成</p>

	<p>技術研修を受け、アユ種苗の生残率の向上により種苗単価を抑え、中間育成経費の削減を図る。</p> <p>④放流方法の改善</p> <p>漁協は、日野川における魚種毎の最適放流条件を決定するため専門家による生息環境調査を実施する。</p>
活用する支援措置等	<p>浜の活力再生交付金</p> <p>水産多面的機能発揮対策支援事業</p>

2年目（平成30年度）

以下の取組で漁業所得を基準年度比33.8%向上させる。

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>①アユ等資源の増加</p> <p>漁協は、引き続き海産系アユの放流を実施し、河川での再生産による資源の増加を図る。</p> <p>併せて、昨年度の河床礫石の状況調査および検討結果を踏まえて産卵床の造成場所を決定し、産卵床の試験造成を実施する。</p> <p>②遊漁者の増加</p> <p>漁協は、新設した遊漁管理施設を活用し、最新の釣り情報の提供やオトリ鮎の販売を開始することで、利便性の向上による遊漁者の増加を図るとともに、初心者への釣り講習会を定期的に開催し、新規遊漁者の確保に努める。</p> <p>また引き続き遊漁解禁前などに定期的に水辺の樹木伐採、ゴミ拾い等の河川美化活動を実施し、新規の釣り客も着やすい釣り場環境の整備を行い、遊漁者数の増加につなげる。</p> <p>③アユの販売による収益確保</p> <p>漁協および越前市、鯖江市、南越前町は、継続して各種イベントや情報誌で日野川のアユのPR活動を行い、認知度向上を図るとともに、日野川流域（越前市・鯖江市・南越前町）管内の料亭等と協議をし、昨年度選定した販売先と天然アユの出荷・販売体制を協議する。</p> <p>また、漁協は、遊漁管理施設でおとりアユの販売を開始し、漁協の収益増加を図る。</p> <p>④担い手の育成</p> <p>漁協は、引き続き日野川流域で開催される行政と連携した川に関するイベント等へ積極的に参加し、内水面漁業の魅力を広く周知する。</p>
---------------------	--

	<p>また、初心者を対象とする釣り講習会を定期的に開催することで、釣り人口を拡大させ、将来の漁業者の確保を目指す。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>①漁場環境の改善</p> <p>漁協は、引き続き定期的な釣り漁場の清掃によるゴミの回収や操業の障害となる水底の岩礁の移動を行うことで、操業中の漁具の引っ掛かりや損傷による消耗を抑え、資材費の削減を図る。併せて遊漁者に対し、ゴミの持ち帰り等呼びかけ活動を実施することで良好な漁場環境の維持管理に努める。</p> <p>②アユ中間育成方法の改善</p> <p>漁協は、昨年度の検討結果を踏まえて、試験的に中間育成施設への稚アユ種苗の受け入れを地下水温の高い1月に前倒し、飼育経費の削減を図る。</p> <p>③中間育成技術の向上</p> <p>漁協は、引き続き県内水面総合センターや民間の経験者等からアユの中間育成技術研修を受け、アユ種苗の生残率の向上により種苗単価を抑え、中間育成経費の削減を図る。</p> <p>④放流方法の改善</p> <p>漁協は、引き続き日野川における専門家による生息環境調査を実施するとともに、最適放流条件を決定する。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<p>水産多面的機能発揮対策支援事業</p>

3年目（平成31年度）

以下の取組で漁業所得を基準年度比88.9%向上させる。

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>①アユ等資源の増加</p> <p>漁協は、引き続き海産系アユの放流を実施し、河川での再生産による資源の増加を図る。</p> <p>併せて、昨年度に造成した産卵床の修理および改善を行うとともに、新たな産卵床を造成し試験規模の拡大を図る。</p> <p>②遊漁者の増加</p> <p>漁協は、引き続き遊漁管理施設を活用し、最新の釣り情報の提供やオトリ鮎の販売を実施することで、利便性の向上による遊漁者の増加を図る。</p>
---------------------	--

	<p>るとともに、初心者への釣り講習会を定期的で開催し、新規遊漁者の確保に努める。</p> <p>さらに、アユの中間育成施設での飼育方法を見直して飼育期間の短縮を図ることで種苗の放流時期を早くすることにより、アユ釣りの解禁日を現在の6月下旬から6月上旬に早期化し、遊漁期間の長期化による遊漁者数の増加を図る。</p> <p>併せてHPのリニューアルを行い、従来の釣り場情報だけでなく、遊漁管理施設での取り組みやイベント情報、アユ解禁日の変更等を積極的に発信する。</p> <p>また、引き続き遊漁解禁前などに定期的に水辺の樹木伐採、ゴミ拾い等の河川美化活動を実施し、新規の釣り客も着やすい釣り場環境の整備を行い、遊漁者数の増加につなげる。</p> <p>③アユの販売による収益確保</p> <p>漁協および越前市、鯖江市、南越前町は、継続して各種イベントや情報誌で日野川のアユのPR活動を行い、認知度向上を図る。漁協は、試験的に料亭等への天然アユの出荷・販売出荷を開始し、継続可能な体制の確立を図る。</p> <p>また、遊漁管理施設でおとりアユを販売し、漁業者の収入増加を図る。</p> <p>④担い手の育成</p> <p>漁協は、引き続き日野川流域で開催される行政と連携した川に関するイベント等へ積極的に参加し、内水面漁業の魅力を広く周知する。</p> <p>また初心者を対象とする釣り講習会を定期的で開催することで、釣り人口を拡大させ、将来の漁業者の確保を目指す。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>①漁場環境の改善</p> <p>漁協は、引き続き定期的な釣り漁場の清掃によるゴミの回収や操業の障害となる水底の岩礁の移動を行うことで、操業中の漁具の引っ掛かりや損傷による消耗を抑え、資材費の削減を図る。併せて遊漁者に対し、ゴミの持ち帰り等呼びかけ活動を実施することで良好な漁場環境の維持管理に努める。</p> <p>②アユ中間育成方法の改善</p> <p>漁協は、昨年度の試験飼育結果を踏まえて、本格的に中間育成施設の稚アユ種苗の受け入れを地下水温の高い1月とし、飼育経費の削減を図る。</p>

	<p>③中間育成技術の向上</p> <p>漁協は、引き続き県内水面総合センターや民間の経験者等からアユの中間育成技術研修を受け、アユ種苗の生残率の向上により種苗単価を抑え、中間育成経費の削減を図る。</p> <p>併せて、サクラマス（ヤマメ）のについても採卵・卵管理・孵化にかかる技術研修を受け、日野川で採捕されたサクラマスから放流用種苗を生産し、種苗購入費の削減と日野川での再生産の増加を図る。</p> <p>④放流方法の改善</p> <p>漁協は、専門家の指導のもと魚種毎の放流条件を改善し、放流種苗の生存率の向上を図る。特にアユについては、放流箇所を限定し集中して放流することで、放流経費の削減を図るとともに、魚影の濃い釣りやすい釣り場を造成する。</p> <p>また、遊漁期間終了後には生息環境調査を実施し、最適放流条件での放流効果の検証を行う。</p>
活用する支援措置等	水産多面的機能発揮対策支援事業

4年目（平成32年度）

以下の取組で漁業所得を基準年度比135.6%向上させる。

漁業収入向上のための取組	<p>①アユ等資源の増加</p> <p>漁協は、引き続き海産系アユの放流を実施し、河川での再生産による資源の増加を図る。</p> <p>併せて、昨年度までに造成した産卵床の修理および改善を行うとともに、新たな産卵床を造成し試験規模の拡大を図る。</p> <p>②遊漁者の増加</p> <p>漁協は、引き続き遊漁管理施設を活用し、最新の釣り情報の提供やオトリ鮎の販売を実施することで、利便性の向上による遊漁者の増加を図るとともに、初心者への釣り講習会を定期的で開催し、新規遊漁者の確保に努める。</p> <p>さらに、アユの中間育成施設での飼育方法を見直して飼育期間の短縮を図ることで種苗の放流時期を早くすることにより、アユ釣りの解禁日を現在の6月下旬から6月上旬に早期化し、遊漁期間の長期化による遊漁者数の増加を引き続き図る。</p>
--------------	---

	<p>併せてHPにおいて、釣り場情報だけでなく、遊漁管理施設での取り組みやイベント情報、アユ解禁日の変更等を積極的に発信する。</p> <p>また、引き続き遊漁解禁前などに定期的に水辺の樹木伐採、ゴミ拾い等の河川美化活動を実施し、新規の釣り客も着やすい釣り場環境の整備を行い、遊漁者数の増加につなげる。</p> <p>③アユの販売による収益確保</p> <p>漁協および越前市、鯖江市、南越前町は、継続して各種イベントや情報誌で日野川のアユのPR活動を行い、認知度向上を図る。漁協は、引き続き試験的に料亭等への天然アユの出荷・販売を実施し、昨年度を上回る取扱量を目指す。</p> <p>また、遊漁管理施設でおとりアユを販売し、漁業者の収入増加を図る。</p> <p>④担い手の育成</p> <p>漁協は、引き続き日野川流域で開催される行政と連携した川に関するイベント等へ積極的に参加し、内水面漁業の魅力を広く周知する。</p> <p>また、初心者を対象とする釣り講習会を定期的に開催することで、釣り人口を拡大させ、将来の漁業者の確保を目指す。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>①漁場環境の改善</p> <p>漁協は、引き続き定期的な釣り漁場の清掃によるゴミの回収や操業の障害となる水底の岩礁の移動を行うことで、操業中の漁具の引っ掛かりや損傷による消耗を抑え、資材費の削減を図る。併せて遊漁者に対し、ゴミの持ち帰り等呼びかけ活動を実施することで良好な漁場環境の維持管理に努める。</p> <p>②アユ中間育成方法の改善</p> <p>漁協は、引き続き中間育成施設の稚アユ種苗の受け入れを地下水温の高い1月とし、飼育経費の削減を図る。</p> <p>③中間育成技術の向上</p> <p>漁協は、引き続き県内水面総合センターや民間の経験者等からアユの中間育成技術研修を受け、アユ種苗の生残率の向上により種苗単価を抑え、中間育成経費の削減を図る。</p> <p>併せて、サクラマス（ヤマメ）のについても採卵・卵管理・孵化にかかる技術研修を受け、日野川で採捕されたサクラマスから放流用種苗を生産し、種苗購入費の削減と日野川での再生産の増加を図る。</p> <p>④放流方法の改善</p>

	<p>漁協は、専門家の指導のもと魚種毎の放流条件を改善し、放流種苗の生存率の向上を図る。特にアユについては、放流箇所を限定し集中して放流することで、放流経費の削減を図るとともに、魚影の濃い釣りやすい釣り場を造成する。</p> <p>また、遊漁期間終了後には生息環境調査を実施し、最適放流条件での放流効果の検証を行う。</p>
活用する支援措置等	水産多面的機能発揮対策支援事業

5年目（平成33年度）

以下の取組で漁業所得を基準年度比 233.3%向上させる。

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>①アユ等資源の増加</p> <p>漁協は、引き続き海産系アユの放流を実施し、河川での再生産による資源の増加を図る。</p> <p>併せて、昨年度までの試験の結果を踏まえて継続して管理する産卵床を絞り込み、本格的に造成を行うとともに、親魚放流を実施し円滑な再生産を促す。</p> <p>②遊漁者の増加</p> <p>漁協は、引き続き遊漁管理施設を活用し、最新の釣り情報の提供やオトリ鮎の販売を実施することで、利便性の向上による遊漁者の増加を図るとともに、初心者への釣り講習会を定期的に開催し、新規遊漁者の確保に努める。</p> <p>さらに、引き続き、アユの中間育成施設での飼育方法を見直して飼育期間の短縮を図ることで種苗の放流時期を早くすることにより、アユ釣りの解禁日を現在の6月下旬から6月上旬に早期化し、遊漁期間の長期化による遊漁者数の増加を引き続き図る。</p> <p>併せてHPにおいて、釣り場情報だけでなく、遊漁管理施設での取り組みやイベント情報、アユ解禁日の変更等を積極的に発信する。</p> <p>また、引き続き遊漁解禁前などに定期的に水辺の樹木伐採、ゴミ拾い等の河川美化活動を実施し、新規の釣り客も着やすい釣り場環境の整備を行い、遊漁者数の増加につなげる。</p> <p>③アユの販売による収益確保</p> <p>漁協および越前市、鯖江市、南越前町は、継続して各種イベントや情</p>
---------------------	---

	<p>報誌で日野川のアユのPR活動を行い、認知度向上を図る。漁協は、前年度までの料亭等への天然アユの試験出荷・販売の結果を踏まえて持続可能な体制を確立するとともに、新たな販売先の検討を行う。</p> <p>また、遊漁管理施設でおとりアユを販売し、漁業者の収入増加を図る。</p> <p>④担い手の育成</p> <p>漁協は、引き続き日野川流域で開催される行政と連携した川に関するイベント等へ積極的に参加し、内水面漁業の魅力を広く周知する。</p> <p>また初心者を対象とする釣り講習会を定期的で開催することで、釣り人口を拡大させ、将来の漁業者の確保を目指す。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>①漁場環境の改善</p> <p>漁協は、引き続き定期的な釣り漁場の清掃によるゴミの回収や操業の障害となる水底の岩礁の移動を行うことで、操業中の漁具の引っ掛かりや損傷による消耗を抑え、資材費の削減を図る。併せて遊漁者に対し、ゴミの持ち帰り等呼びかけ活動を実施することで良好な漁場環境の維持管理に努める。</p> <p>②アユ中間育成方法の改善</p> <p>漁協は、引き続き中間育成施設の稚アユ種苗の受け入れを地下水温の高い1月とし、飼育経費の削減を図る。</p> <p>③中間育成技術の向上</p> <p>漁協は、引き続き県内水面総合センターや民間の経験者等からアユの中間育成技術研修を受け、アユ種苗の生残率の向上により種苗単価を抑え、中間育成経費の削減を図る。</p> <p>併せて、サクラマス（ヤマメ）のついても採卵・卵管理・孵化にかかる技術研修を受け、日野川で採捕されたサクラマスから放流用種苗を生産し、種苗購入費の削減と日野川での再生産の増加を図る。</p> <p>④放流方法の改善</p> <p>漁協は、専門家の指導のもと魚種毎の放流条件を改善し、放流種苗の生存率の向上を図る。特にアユについては、放流箇所を限定し集中して放流することで、放流経費の削減を図るとともに、魚影の濃い釣りやすい釣り場を造成する。</p> <p>また、遊漁期間終了後には生息環境調査を実施し、最適放流条件での放流効果の検証を行う。</p>
<p>活用する支援</p>	<p>水産多面的機能発揮対策支援事業</p>

措置等	
-----	--

(4) 関係機関との連携

越前市、鯖江市および南越前町において日野川の豊かな自然環境およびそこに生息するアユやサクラマス（ヤマメ）といった生物は重要な観光資源であり、地域の活性化に大きく影響している。特に、日野川のアユの認知度の向上や消費の拡大のための情報誌等を活用した周知活動やイベントの開催といった広報活動は、漁協単独での活動では限界があり、市町の垣根を越えた広域かつ継続した活動である必要がある。そのため漁協と市町が密に連携できる体制を整備し、流域全体で漁業者の所得向上に向けた取組みを推進する。

また福井県（農林水産部水産課、内水面総合センター、栽培漁業センター）や福井県内水面漁業協同組合連合会が各取組みに対する助言や技術的指導を行い、漁業者の所得向上に向けた取組みを支援していく。

4 目標

(1) 数値目標

漁業所得の向上 10%	基準年	平成	年度：漁業所得	千円
	目標年	平成	年度：漁業所得	千円

(2) 上記の算出方法及びその妥当性

5 関連施策

活用を予定している関連施策名とその内容及びプラントの関連性

事業名	事業内容及び「浜の活力再生プラン」との関係性
浜の活力再生交付金（ハード事業）	遊漁管理施設の建設
水産多面的機能発揮対策事業	漁場環境整備、生息環境調査